

# 「日本の生活と文化」をトピックにした 中等教育向け読解教材の開発

－英国中等教育向け日本語リソース  
『読む力－CHIKARA for READING－』の場合－

来嶋洋美

[キーワード] 中等教育、読解教材、日本事情、文化理解、トピックシラバス

## [要旨]

中等教育向け日本語リソース『力－CHIKARA－』は、英国の GCSE 試験のシラバスをもとにしたトピックからなるリソース群である。このうち『読む力－CHIKARA for READING－』は、「日本の生活と文化」がトピックで、特に読解を通した日本語と日本事情の学習のために開発された。

『読む力－CHIKARA for READING－』には「ホームステイ」「日本人のお祝い」など7つのサブトピックがあり、各サブトピックは本文とその音声、理解問題のほか、漢字・語いの問題、文型練習、発展課題等で構成されている。主な特徴としては、初級前半の学習者にとって読解活動がしやすいように内容的に相互に独立した短い段落で本文を構成したこと、文型練習の設問にも本文の内容を生かした文脈づけをしたことなどがある。ここでは、このような『読む力－CHIKARA for READING－』の開発過程と内容・構成について報告する。

## 1. はじめに

国際交流基金の2006年の調査によると、海外の日本語教育における中等教育の学習者増加は著しく、学習者全体の約57%を占めている。その主な学習目的は「日本語によるコミュニケーション」「日本語という言葉そのものへの興味」と同時に「日本文化に関する知識を得るため」「国際理解・異文化理解の一環として」ということである（国際交流基金2008）。

国際理解の必要性が日々指摘される現代において、様々な文化について学ぶことや文化理解の一環として外国語を教えるという視点はますます重視されるようになってきており、現場の教師にとってもそれをどう教室での実践に結びつけていくかということは重要な課題と言える。特に人間形成期にある中等教育の学習者に対しては、異文化を通して自己と自国の文化を見つめ直すと同時に、様々な価値を理解し認める態度を養うように教育の場が働きかけることが求められるであろう（川上2002、矢部2001）。

一方で、日本語学習者の立場からしても、前述の調査が示すように日本文化に興味関心をも

っている者は多い。日本の文化事情を知ること／楽しむことは日本語学習と必ずしも同列ではないが、学校の授業でも日本語だけではなく日本について様々なことが学べれば、それは学習者にとって楽しいことであり、日本語学習への動機にもつながるだろう。

このような教育現場からのニーズに日本語教育はどう応えられるか、日本の生活文化について知り、自国の文化と比べ、考える一助とするための素材を提供するための第一歩として、JF ロンドン日本文化センター<sup>(1)</sup>は日本語教育用リソース『読む力－CHIKARA for READING－』を開発し、2008年3月からウェブ上で公開している。ここではその開発過程と内容、構成について報告する。

## 2. 中等教育向け日本語リソース『力－CHIKARA－』と『読む力－CHIKARA for READING－』

中等教育向け日本語リソース『力－CHIKARA－』は、英国の中等教育修了資格試験 GCSE (General Certificate of Education) のシラバス<sup>(2)</sup>にあるトピックと文型をもとに開発されたリソース群で、ロンドン日本文化センターのウェブサイト上で現在無料配信されている。表1に示す4つのトピックのうち、基本的な文型とコミュニケーションの学習を目指した「わたし・家族・家での生活」(以下「わたし」)、「学校生活」(以下「学校」)、「町・社会生活」(以下「町」)の教材リソース群については、すでにその開発過程、内容・構成、教師研修での利用などについて報告してきた(来嶋2008、来嶋・村田2008、来嶋・田中2008、来嶋・宇田川他2009、来嶋・田中2009)。のこる「日本の生活と文化」(以下「日本」)をトピックにしたリソースは読解を通じた日本語と日本事情の指導が可能になるように開発したもので、特にこれを『読む力－CHIKARA for READING－』と名づけている。この4トピックからなる『力－CHIKARA－』は基本的にトピックシラバスで作られているが、文型学習も体系的に行えるような設計になっている。文型レベルは、GCSE シラバスの項目と日本語能力試験や GCE (General Certificate of Education) 試験<sup>(3)</sup>のシラバスとの重なりを参考にして、A、B、Cの3レベルにリソース開発者(筆者)が分類したものである<sup>(4)</sup>(来嶋・村田2008)。

「日本の生活と文化」をトピックにした中等教育向け読解教材の開発

表1 『力-CHIKARA-』リソースのトピック・学習目的・文型レベル

『力』のトピック名	GCSE トピック	学習目的	文型レベル*
わたし・家族・家での生活 Myself, Family & Home life	House, home & daily life	-日本語の文型・文法練習 -コミュニケーションのために日本語を使う練習	A~B レベル 及び C レベル (一部)
学校生活 School Life& Routines	Education, training & employment		
町・社会生活 Town & Social Life	Social activities, fitness & health		
日本の生活と文化 Life and Culture in Japan  『読む力』	Media, entertainment & youth culture	-日本語の文型・文法練習 -読解練習	A~C レベル
	In the UK & abroad	-日本事情・文化の知識	

文型レベル\* は「GCSE 文型リスト JFLLC 版」による。(A:もともと基本的 B:基本的 C:やや難しい)

トピックは、家庭生活(「わたし」、学校生活、社会生活へと学習者にとっていちばん近い世界から徐々に広がっていくが、4つ目の「日本」は、いよいよ日本の生活と文化へ目を向けるというわけである。「日本」の文型レベルは、「わたし」「学校」「町」の3トピックで学習したことをもとに GCSE すべての文型を使用範囲に入れてある。特に C レベルの文型は初出であるだけでなく、GCE 試験との重なりも多いので、文型練習の項目になっている。

「わたし」「学校」「町」の目標は「基本的文型を正しく使って身近な話題でコミュニケーションができるようになること」であるのに対して、「日本」は「読解を通して日本についてより広く知ること」を重視する。さらに英国の文脈で言うと、大学入試に必要な GCE 試験へのつながりを意識したものでもある。英国には日本研究をささえるために日本語教育を行ってきた伝統があり、GCE の試験問題には、地理や産業、現代社会における経済や教育の問題、祭りや年中行事、文学などの諸領域にわたるテーマで作文を書くといった課題がある。したがって日本の生活と文化について読みながら学ぶことは、その準備としても適当であると思われる。

さて、中等教育の現場で教えている多くの教師は、自分の学習者にあった、すぐに使える教材をつねに求めているが、読解教材は特に不足している。文型学習のために読む素材はあっても、トピック=内容を学習するために読む素材は、初級前半のレベルではなかなか見あたらない。日本語を母語とする教師のなかには、できれば自分で作りたいと思う教師も少なくないだろうが、教師の多くは学校現場の業務で多忙であり、教材を自作する時間がなかなかとれないと考えている。まして非日本語母語話者の教師にとっては、多くの場合日本語と内容の両面か

ら自信を持って読解教材を作ることは難しいのではないだろうか。このようなことから、『読む力—CHIKARA for READING—』を開発するにあたっては、次のことを念頭においた。まず学習者にとっては①内容を学習するために読む素材にすること、つまり読んでおもしろく、役に立つ内容にすること、②初級前半のレベルでも読解作業ができるように本文の構成を工夫すること、③初級文型の学習も必要なレベルなので、文型練習に読解本文の内容との関連を持たせてユニット全体で内容学習ができるような構成にすること、の3点である。また、現場の教師にとっては使いやすいこと、すぐに使えるような教材にすることを目指した。具体的には、④読解内容を深めてより楽しい内容の学習にできるような情報、教師自身の予習のための役に立つ情報を入れること、⑤授業時間などの条件によって、読解以外の活動の調節がしやすい構成にすること、⑥初級前半の学習者への読解活動がしやすいようにテキストの構成を工夫すること、の3点である。

トピック中心の教材ではそのトピックに必要なかどうかという基準で文型が選択されるので、言語項目の学習への配慮はしにくい面もあるかもしれないが、一方で、学ぶ内容を中心に教室活動を展開していけるという利点がある。トピック「日本」の教材『読む力—CHIKARA for READING—』は、先行開発した「わたし」「学校」「町」よりもさらにトピックシラバスの利点が活かせる教材にできるのではないかと考えた。

### 3. 『読む力—CHIKARA for READING—』の開発過程

『読む力—CHIKARA for READING—』は筆者がJF ロンドン日本文化センター赴任時に開発に携わったものである。海外で日本の生活文化をトピックにした教材を作るという状況にあって、読解テキストを執筆するための情報収集から、教材作成に必要な写真やイラスト等の素材収集にいたるまで、インターネットで得られる情報を活用しながら作業を進めた<sup>6)</sup>。なお、現在公開している『読む力—CHIKARA for READING—』7サブトピック分の開発には、筆者一人で約8ヶ月間を要している。具体的な開発のプロセスは以下の通りである。

#### 1) トピック「日本の生活と文化」のサブトピックを考える：

まず、「日本の生活と文化」というトピックのもと、具体的にどんな内容をサブトピック(テーマ)にするか検討した。GCSEとGCEのシラバス、オーストラリアの中等教育向け教科書、日本でよく使われている数種類の教科書、国際交流基金制作の「教科書をつくろう」及び「日本語教育通信」「エリンが挑戦！にほんごできます。」などのシラバスを参照した。インターネットでもさらにリサーチをして、学習者にとって興味を持ってそうな内容で、本文を書くのに必要な、ある程度の情報量があればとりあげることにした。学習者にとって興味を持ってそうな内容であるかどうかは、筆者がイギリスの中等教育現場の教師たちに日常的に聞いていた情報によって判断した。さらに上記の教科書等で比較的良好に取り上げられていること、学校行事との

## 「日本の生活と文化」をトピックにした中等教育向け読解教材の開発

関連性が強いこと、男子生徒向きと女子生徒向きの両方を入れること、いろいろな分野のものを入れること、などにも留意した。表2は教材化したサブトピックである。<sup>6)</sup>

表2 『読む力－CHIKARA for READING－』のサブトピック

J1	ホームステイ	Homestay	J5	日本のロボット	Robot
J2	日本人のお祝い	Celebrations	J6	東京	Tokyo
J3	きもの	Kimono	J7	じしん	Earthquake
J4	きせつとはいく	Haiku			

※J1などの数字は教材番号

### 2) 読解授業での活動とそれに必要な教材の種類を考える：

『読む力－CHIKARA for READING－』を含む『力－CHIKARA－』リソースは一つのサブトピックが数種類の教材で構成されているが、教科書ではない。教師が授業を計画する上で必要な教材を選んで使えるように作られたモジュール型リソースである。しかし、一つのサブトピックを構成する教材すべてを利用する場合にも、効果的な指導ができるような合理性が必要である。この点に留意して「わたし」「学校」「町」では日本語能力試験や構造シラバスの日本語教科書等を参考にシラバスを、また「初級授業の流れ」のモデル（国際交流基金2006）をもとに、教材の構成を考えた（来嶋2008、来嶋・村田2008）。

『読む力－CHIKARA for READING－』においても同様の考え方で、モジュール的に使用できると同時に、全体的な流れもある教材にすることを目指した。そこで「前作業→本作業→後作業」からなる読解授業の流れのモデル（国際交流基金2006）を参考に、読解本文を素材にした授業で行われ得る活動を想定して、一つのサブトピックを次のような教材で構成することにした。

前作業：読む前に（本文の内容に関する質問）、キーワード、ぶんけい（重要文型提示用）、

本作業：読解本文、理解問題、（写真やイラストなど）

後作業：漢字と語彙の問題、文型練習、教師用参考情報（発展課題のため）、

その他：本文を朗読した音声ファイル

### 3) 教材用シラバスを書く：

サブトピック、文型と難度のレベル、キーワード、日本文化事情、発展課題の教師用情報、本文の写真と参考資料の6項目をたてて、表3のような教材作成用のシラバスを書いた。『写真パネルバンク』は教材寄贈プログラムによって紙製パネル版が多くの学校に渡っており、教室でもそれを利用することが多いと思われるため、パネルの番号まで書くこととした。シラバスは教材を作成する過程でさまざまな変更もあるので、最終的には教材完成後に変更箇所を修

正して仕上げた。

表3 教材シラバス抜粋 (サブトピック: J1 「ホームステイ」)

No.	サブトピック Subtopic	文型 Structure/Grammar	(レベル) (level)	キーワード Keywords	日本文化事情 Cultural points	発展課題の教師用情報 Teacher's Information for Extended Exercises	本文の写真と参考資料 Pictures&References for the main text
J1	ホームステイ	①V-てみます ②V-てはいけません ③V-たほうがいいです/ V-ないほうがいいです ④V-マスカた ⑤V-plain とき	(C, AS) (B) (B, AS) (B, AS) (C, AS)	ホームステイ、生活、 玄関、家にとりま す、スリッパ、お風 呂、お湯、茶わん、 箸、トイレ、畳、和 室	・玄関で靴を脱ぐ ・おふろの入り方 ・食事の仕方 ・トイレのスリッパ ・和室	・ビデオ「日常生活に見る日 本文化1」東京書籍 ・DVD「エリンが挑戦！に ほんごできます。」 (第3課、第7課) ・「写真パネルバンク」の番 号 住居：1-032~049 玄関：1, 034, 5-086 ふろ：1-046, 5-027 食事：1-035, 1-040, 5-008, 5-009, 5-017, 5-018 トイレ：1-045 和室：1-038, 1-043, 5-006 Vol.5日常生活シリーズ全般	・教科書をつくろう 13-6日本でホームステイ ・写真パネル 1-002洋服2 1-017朝食1 1-039LDK 1-045トイレ

#### 4) 教材を書く：

シラバスを作成したあと、おおよそ以下の流れで教材を書いていった。学習者にとっては楽しくわかりやすいテキストでかつ教師にとっては指導しやすいものを作成することは容易ではなく、実際には書いては修正することを繰り返しながら、完成に近づけていった。

①本文 → ②理解問題 → ③読む前に・キーワード・ぶんけい → ④漢字・語彙問題 → ⑤文型練習 → ⑥教師用参考資料 → ⑦本文の録音

本文の録音は音声編集用のフリーソフト Audacity を利用した。どのぐらいのスピードで読むべきか迷ったが、読むことにまだ慣れていない学習者が、聞きながらテキストの活字を追えるぐらいのスピードを目指した。結果としてやや遅めになったのではないと思う。

#### 5) 使い方の説明を書く：

英語及び日本語で教材の内容、構成、使い方等についての説明を書いた。ロンドンで実施する日本語教師研修会に来る機会がない教師も少なくないので、読めばすぐにわかる説明を書くことは重要なポイントであった。

#### 6) 公開する：

使い方の説明と各サブトピックの教材のファイルを JF ロンドン日本文化センターのウェブサイト内にある『読む力-CHIKARA for READING-』のページにアップロードした。

### 4. 『読む力-CHIKARA for READING-』の内容・構成

前章で報告したような過程を経て、『読む力-CHIKARA for READING-』は以下のような内容と構成を持つ教材リソースにできあがった。表4はそれを使い方の例と合わせて示したものである。

「日本の生活と文化」をトピックにした中等教育向け読解教材の開発

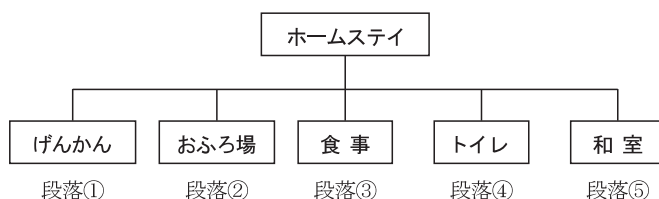
表4 『読む力－CHIKARA for READING－』（トピック「日本」）の構成・内容・使い方の例

授業の流れ	構成	内容	使い方の例
前作業	読む前に	－本文のテーマや内容に関連した質問。	－本文を読む前に、クラスでそのテーマや内容について知っていることなどを話す。
	キーワード	－本文のキーワード(ひらがな、漢字) －意味の欄は空白にしてある。 －漢字はGCSE、GCEにないものも参考として書いてある。	－キーワードを見て本文の内容を推測する。 －ことばの意味を調べて書き込む。(予習)
	文型	－本文にある重要文型。	－読むとき気をつける文型を確認する。
本作業	本文	－テーマは日本の生活と文化。 －GCSE 漢字はルビなし、その他はルビ付で表記。語を部分的に漢字表記することはできるだけ避けた。 －文型はA、B、Cレベル使用。 (JFLLC版GCSE文型リストによる分類)	－授業で教師の指導のもとに使う。 －短い段落を、ペアやグループで分担して読んでもよい。
	本文のりかい	－本文の理解をチェックする問題。 正誤式と記述式。 －表記はGCSE漢字のみ使用。 －解答例あり。	－授業で教師の指導のもとに使う。 －正誤問題で全体的な理解を、記述問題で詳細の理解を確認する。
後作業	漢字とことば	－GCSE漢字(読み、書き、意味)と語いの問題。 －解答例あり。	－授業、復習に使う。 (予習に使ってもよい。) －この部分だけでGCSEの総復習に使う。
	ぶんけい	－文型練習問題。 －GCSE文型Cレベル中心だが、GCE(AS)と重なる項目が多い。 －本文内容と関連した文脈を設定。 －表記はGCSE漢字のみ使用。 －解答例あり。	－授業で教師の指導のもとに使う。
	発展課題(J1-J6)	－本文のテーマをもう少し深めた学習のためのアイデアと教師用情報。	－日本の生活と文化についての学習を深める教室活動や課題を考える際に、教師が参考資料として使う。
その他	答え	－「本文のりかい」、「漢字とことば」、「ぶんけい」の解答例。	－各練習問題の答えを確認する。
	音声	－本文を朗読した音声のファイル。	－ルビのついていない漢字(GCSE漢字)の読み方をチェックする。(前作業) －読む前に聞いて本文の内容を推測する。(前作業) －読む速度をあげるために使う。(特に読むのが遅い学習者) (本作業) －朗読練習のモデルに使う。(本作業) －重要語句・表現を聞き取る練習(穴埋めなど)にして使う。(前/後作業) －聴解練習に使用する。 －聞いて要約する練習に使う。

ここで教材構成、テキスト（本文）、文型練習の各項目について若干の説明を加えておきたい。まず第3章でも述べたように、『読む力—CHIKARA for READING—』はサブトピック全体としても授業の流れにあうような教材構成になっている。しかし教材の使い方は、表中に示されている授業の流れの段階でしか使えないということではもちろんない。例えば「漢字とことば」は後作業だけでなく、予習用に使うこともできるだろう。また「その他」に含めた音声ファイルも、授業の流れの内外で様々な使い方が考えられる。教師の工夫で学習目的にあった使い方をすることが可能である。

次に本文については、中等教育の学習者にとって興味関心の持てる内容を目指したことは既に述べたとおりである。このほか、初級前半の学習者への読解指導／読解学習を想定して、①短い段落を積み上げて日本の生活・文化の知識を得られるようにする、②グループやペアでの活動をしやすいようにする、という2点に留意した。さらに各段落が全体テーマに関連しつつもできるだけ独立した内容を持つようにした（図1）。

図1 段落構成の例（J1「ホームステイ」の場合）



例えば、J1「ホームステイ」では、日本人の家での暮らし方をふまえたホームステイ先でのマナーを紹介するために、「げんかん」、「おふろ場」、「食事」、「トイレ」、「和室」の各段落にわけて200～250字程度の説明文を書いた。ここでは段落間の関係はほとんどない。つまり、「げんかん」での説明がじゅうぶん理解できなかったとしても、次の「おふろ場」の説明の理解には影響しない。このように独立した内容を持つ段落にすることで読解プロセス上の負担が軽減されるだけでなく、すべての段落を読めば最終的に幅広く知識を得られると考えた。

第3に『読む力—CHIKARA for READING—』では、文型練習にトピックにあわせた文脈を与えたことを特に挙げておきたい。トピックシラバスはその課で扱うトピックに関連づけて教室活動を展開できるという利点がある。『読む力—CHIKARA for READING—』はこの利点を活かして、文型練習に読解テキストと関連した文脈付けを試みた。前述のJ1「ホームステイ」の重要文型に含まれている「Vてはいけません」「Vたほうがいいです/Vないほうがいいです」は、以下のような導入文を書いて、練習に意味をもたせるように工夫した。例1は読解本文で学んだ内容（日本の家でのマナー）を思い出しながら文を作る練習で、例2は本文の内容



を少し広く発展させて設定した文脈である。

<p>例1 「Vてはいけません」</p> <p>●日本の家で、どんなマナーがありますか。ことばを選んで、文を書いてください。</p> <p>例) トイレのスリッパで外に <u>出てはいけません</u>。</p> <p style="text-align: center;">でます あるきます つかいます うけとります すてます はきます</p> <p>1) たたみの上をスリッパで_____ 4) ちゃわんをかた手で_____</p> <p>2) おふろのおゆを_____ 5) ほかの人のおはしを_____</p> <p>3) 家の中でくつを_____</p>
<p>例2 「Vたほうがいいです/Vないほうがいいです」</p> <p>●だれかの家に遊びに行きます。どんなマナーがありますか。ことばを選んで、文を書いてください。</p> <p>例) その家に行く前に、<u>電話したほうがいいです</u>。</p> <p style="text-align: center;">電話します 電話しません 上がります 上がりません 聞きます 聞きません はきます はきません 持って行きます 持って行きません つきます つきません 言います 言いません</p> <p>1) イギリスでは、少しおそく家に_____ 4) 和食の食べかたを家の人に_____</p> <p>2) 日本では、おみやげを_____ 5) 日本では、古いくつしたを_____</p> <p>3) ベジタリアンの人は、食事の前に_____ 6) 日本の家では、はだしで_____</p>

## 5. おわりに

以上、英国の中等教育支援のために開発した『読む力-CHIKARA for READING-』の開発過程と内容・構成について報告した。現在、『読む力-CHIKARA for READING-』は『力-CHIKARA-』のほかの3トピックと共にロンドン日本文化センターのウェブサイト上で公開、無料ダウンロードができるようになっており、CD-ROMの無料配布も行った。しかし、教師用参考情報のページで紹介したウェブサイトの中には年月を経て使用できなくなったものがある点や、とりあげたサブトピックの数がまだじゅうぶんではないなど、問題点や解決すべき課題も残されている。

ただ幸いにも、『読む力-CHIKARA for READING-』を実際に使って教えてみた現場の教師から、日本語のレベルと内容が英国のGCE受験を目指している後期中等教育の学習者にひじょうに合っているというコメントを得ている。さらに、もともと中等教育向けに開発したりソースではあるが、日本の生活と文化というトピックは、成人学習者にもじゅうぶん使用可能である。日本語国際センターの研修でも日本語授業の教材として使用してみたが、日本語能力試験4～3級の日本語力である学習者からは、日本語と同時に日本事情が楽しく勉強できると

いう肯定的な反応を得ることができた。

文化理解や国際理解の学びは、教材さえあれば成立するというものではないが、今後も外国語の授業ではどんな実践が可能なのか、効果的なのか、議論を深めていく必要があるように思う。『読む力-CHIKARA for READING-』が一つの試みとして、少しでもそのような議論の役に立てば幸いである。

〔注〕

<sup>①</sup>筆者は2005年から2008年まで日本語教育派遣専門家として英国に赴任した。当時は JF ロンドン事務所(日本語センター)と呼んでいたが、現在は JF ロンドン日本文化センターに名称変更している。この報告ではこの新名称を使用する。

<sup>②</sup>GCSE 試験シラバスは2010年度実施の試験から改訂版が使用されているが、この報告では『読む力-CHIKARA for READING-』開発のために参照した旧版について言及している。

<sup>③</sup>GCE は大学入学者選抜にも使われる、GCSE よりもさらに上の段階の試験である。AS (Advanced Subsidiary) と A2 (Advanced) の2段階に分けて受験可能。GCSE 日本語の文法項目は、この AS レベルと重なるものが少なくなかった。なお、GCE 試験シラバスも2009年度実施分から改訂されたが、GCSE 試験シラバスと同様、本論では旧版について言及している。

<sup>④</sup>日本語能力試験に照らすと、A レベル (もっとも基本的なレベル) は 4 級、B レベル (基本的なレベル) は 4~3 級、C レベル (やや難しいレベル) は 3 級以上に相当する。

<sup>⑤</sup>『読む力-CHIKARA for READING-』作成にあたって参考にした国際交流基金の日本語教育リソースには以下のものがある。⑤以外はインターネットで入手可能、また③④は①のサイト内で利用可能である。

①『みんなの教材サイト』 (<http://momiji.jpf.go.jp/kyozai/>) 2009年9月30日参照

②『日本語教育通信』 [http://www.jpf.go.jp/j/japan\\_j/publish/tsushin/dw\\_55\\_58.html](http://www.jpf.go.jp/j/japan_j/publish/tsushin/dw_55_58.html) 2009年9月30日参照

③ 中等教育向き素材集『教科書を作ろう』(せつめいへん、れんしゅうへん 1・2)

④『日本語教育用写真パネルバンク』

⑤『エリンが挑戦! 日本語でできます。』

<sup>⑥</sup>このほか「スポーツ」「まんが」などもサブトピックとして適当ではないかと思う。

〔参考文献〕

川上郁雄 (2002) 「年少者のための日本語教育」 細川英雄編『ことばと文化を結ぶ日本語教育』第6章、81-100、凡人社

来嶋洋美、村田春文 (2008) 「英国中等教育向け日本語リソースプロジェクト」『国際交流基金日本語教育紀要』第4号、103-114

来嶋洋美、田中真寿美 (2008) 「中等教育における日本語教育を支援するトピック別リソース-英国の日本語リソース「力-CHIKARA-」の内容・構成-」2008年度日本語教育学会秋季大会予稿集、189-190

来嶋洋美 (2008) 「試験シラバスから教材シラバスをつくる-GCSE 日本語リソース「力-CHIKARA-」のシラバス開発」『ヨーロッパ日本語教育』12、189-195

来嶋洋美、宇田川洋子、ミドルトン晶子、村田春文 (2009) 「英国中等教育向け日本語リソース『力-

「日本の生活と文化」をトピックにした中等教育向け読解教材の開発

『CHIKARAー』を使った日本語教師研修会の実践』『国際交流基金日本語教育紀要』第5号、151-163  
来嶋洋美、田中真寿美（2009）「正しく使える日本語力の養成を目指した授業設計における ICT 教材の位置づけ—英国中等教育向け日本語リソース『カ—CHIKARA—』の場合—」日本教育工学会研究報告集 JSET09-1、125-132

国際交流基金（2006）『読むことを教える』ひつじ書房

国際交流基金（2007）『初級を教える』ひつじ書房

国際交流基金（2008）『海外の日本語教育の現状—日本語教育機関調査・2006年—』

矢部まゆみ（2001）「海外の初中等教育における日本語教育と＜文化リテラシー＞」『21世紀の日本事情』第3号、6-29

国際交流基金ロンドン日本文化センター『カ—CHIKARA—』リソースのページ

<[http://www.jpf.org.uk/language/teaching\\_chikara.php](http://www.jpf.org.uk/language/teaching_chikara.php)> 2009年9月30日参照

国際交流基金ロンドン日本文化センター『読むカ—CHIKARA for READING—』リソースのページ

<[http://www.jpf.org.uk/language/teaching\\_chikara\\_reading.php](http://www.jpf.org.uk/language/teaching_chikara_reading.php)> 2009年9月30日参照

〔資料〕『読む力-CHIKARA for READING-』J1 「ホームステイ」

読む前に 他

「ホームステイ」

●読む前に

- ・あなたは、日本人の家にもらったことがありますか。
- ・イギリスの家の生活と、日本の家の生活は、どちらがうでしょうか。

●キーワード

ことば	漢字	読み
ホームステイ		
せいめつ	生活	
げんかん	玄関	
うち(いえ)にあがる	家(いえ)に上がる	
スリッパ		
おふろ	お風呂	
お灸	お湯	
ちゃわん	茶碗	
はし	箸	
トイレ		
たたみ	畳	
わしつ	和室	

●英訳し!

- ① Vてみます
- ② Vてはいけません
- ③ Vたほうが いいです / Vないほうが いいです
- ④ Vたかた
- ⑤ Vplain とき

本文

「ホームステイ」

●本文

あなたは、日本人の家にいったことがありますか。日本人の家にホームステイをしたいですか。イギリスと日本は、生活のしかたがちがいます。どんなことに気をつけたほうがいいでしょうか。

げんかん

げんかんは、家の入口です。日本では、家の中に入るとき、げんかんでくつをぬぎます。ぬいだくつは、きちんとならべます。でも、すぐはかむときは、げんかに入れたほうがいいです。

家の中は、げんかんより少し高いです。それで、家に入ることを「家(いえ)に上がる」といいます。くつをぬいで家に上がってから、スリッパをはきます。



おふろ場

日本のおふろの入り方を知っていますか。まず、もちろん、洋服をぬぎます。ぬぐところは、おふろ場の横にあります。洋服をぬいで、おふろ場に入ります。おふろ場では、お灸に入る前に、体を洗います。お灸は家族みんなが使いますから、お灸の中で体を洗ってはいけません。体を洗ってから、お灸に入ったらあたまを洗います。お灸から出て、もう一度体を洗ってから、またお灸に入ってもいいです。おふろから出るとき、お灸をすすてはいけません。



本文のりかひ (抜粋)

●本文のりかひ! 本文を読んで、答えてください。

1. 日本の家で「します?」「してはいけません?」一つだけチェックしてください。

日本の家で...	します	してはいけません
①ぬいだくつをきちんとならべます。		
②お灸のなかで体をあらいます。		
③おふろから出るとき、お灸をすすてみます。		
④ちゃわんを持って、ごはんを食べます。		
⑤ちゃわんやさらを、かた手でうけとります。		
⑥自分のスリッパでトイレに入ります。		
⑦スリッパをぬいで、たたみの部屋に入ります。		
⑧たたみの部屋ですわるとき、お灸と人を洗います。		

●どうして、してはいけませんか。理由をかんがえましょう。  
Why are you not allowed to do these things in Japan? Can you think of the reason?

II. 下の質問に答えてください。

- 1) げんかに何をいれますか。
- 2) 日本語では、なぜ「家(いえ)に上がる」といいますか。
- 3) おふろの入り方の順番(1, 2, 3)を書いてください。  
( )お灸に入ります。 ( )ようよくをぬぎます。 ( )体をあらいます。

食事

食事をするとき、家族はみんな、自分だけのちゃわんやはし(おはし)を使います。食事のしかたも、イギリスとちがいます。ごはんを食べるときは、ちゃわんを手に持って食べます。また、ちゃわんやさらを受け取るときは、両手で受け取ります。かた手で受け取ってはいけません。はしの使いかたはあまり難しくありませんから、練習してみてください。食事のあいさつもあります。食事の前に「いただきます」。食事の後で「ごちそうさま」と言います。



トイレ(おてあらい)

トイレには、トイレだけのスリッパがあります。トイレに入るとき、自分のスリッパをトイレのスリッパにかえてください。自分のスリッパをはいてトイレに入ってはいけません。そして、トイレから出るとき、もう一度、スリッパをかえてください。トイレのスリッパをはいてトイレの外に出てはいけません。トイレには洋式と和室の両方があります。今はほとんどの家に洋式トイレがあります。



和室(たたみの部屋)

和室は、日本のでんとく大きな部屋です。和室は、ゆかか「たたみ」です。カーペットは、「ふすま」や「しょうじ」です。簾(すだれ)と和室だけの事はとても少ないです。しかし、日本人はたいてい、自分の家に和室がほしいと思っています。



和室に入るときは、入口でスリッパをぬぎます。スリッパをはいてたたみの上を歩いてはいけません。和室では、座るとき、お灸と人を洗います。

抜粋(ちくすい) 2009年9月16日

漢字とことば

●漢字とことば

I. 1)～6)は漢字の読み方を、7)～12)は漢字を書いてください。  
 \_\_\_\_\_には、意味を選んで書いてください。

- 例) 子ども ( こども ) < f > 小さい ( 小さい ) < e >
- 1) 食事 ( ) < \_\_\_\_\_ > 2) 持つ ( ) < \_\_\_\_\_ >
- 3) 自分 ( ) < \_\_\_\_\_ > 4) 部屋 ( ) < \_\_\_\_\_ >
- 5) 上がる ( ) < \_\_\_\_\_ > 6) 和室 ( ) < \_\_\_\_\_ >
- 7) にほんじん ( ) < \_\_\_\_\_ > 8) いえ ( ) < \_\_\_\_\_ >
- 9) いりぐち ( ) < \_\_\_\_\_ > 10) たべる ( ) < \_\_\_\_\_ >
- 11) て ( ) < \_\_\_\_\_ > 12) すくない ( ) < \_\_\_\_\_ >

a hand b self c most d Japanese room e small f school g house h not  
 i come in j Japanese people k room l few/not many m have/hold n entrance

II. ことばを選んで、書いてください。

- 1) 日本では、家の中で、くつを \_\_\_\_\_。
- 2) イギリスでは、家の中で、くつを \_\_\_\_\_。
- 3) このスーブはあついですから、靴を \_\_\_\_\_。
- 4) げんかんで 😊「ごめんください。」  
 😊「いらっしゃい、さあ、どうぞ \_\_\_\_\_。」
- 5) おふる場では、お妙に \_\_\_\_\_ 餅に、俵を \_\_\_\_\_。

つけてください・あがってください・あらってください・はきます・あきます・はいる

III. 「和」 Japanese と「洋」 western

次のものはどちらですか。選んでください。

1) 和式トイレ ・ 洋式トイレ  2) 和食 ・ 洋食 

3) 和室 ・ 洋室  4) 和服 ・ 洋服 

ぶんけい (抜粋)

●原ん付!

I. やてみます/ やてみました/ やてみたいです

- A. ことばを「やてみます」にかえてください。
- 例) 行きます→く 行ってみます )
- 1) 話します→( ) 2) のります→( ) )
- 3) 入ります→( ) 4) 見ます→( ) )
- 5) 食べます→( ) 6) 抱えしゅうします→( ) )

B. やてみました tried to...

●日本人の友だちが、はじめてロンドンへ来ました。みんなは何をしてみましたか。

- 例) あやさんは、\_\_\_\_\_ はくぶつかんに行ってみました。  
 はくぶつかんに行きます
- 1) こうたく人は、\_\_\_\_\_ 英語で話します
- 2) むさしく人は、\_\_\_\_\_ ミュージカルを見ます
- 3) まりなさんは、\_\_\_\_\_ 地下鉄のりにます

C. やてみたいです I would like to try...

●あなたは日本へ行って、何をしてみたいですか。

- 例) 私は日本で、\_\_\_\_\_ アニメの店に行ってみたいです。
- ・私は、\_\_\_\_\_
- ・私は、\_\_\_\_\_
- ・私は、\_\_\_\_\_

ヒント

- ・ホームステイをします
- ・おそばを食べます
- ・日本のおふるに入ります
- ・アニメの店に行きます
- ・毎日日本語をつかいます
- etc.

発展課題

●発展課題 (教科用資料)

1. ビデオやDVDで日本の家の中の様子と生活様式を見て、イギリスとの違いを話し合う。違う点については、違うという事象だけでなく、なぜ違うのか、日本人にとってそれがなぜ必要なのか、少しほりきげて考えてみる。

参考ビデオ/DVD

- ビデオ「日常生活に見る日本文化 1」(東京書籍)
- DVD「Eリソが挑戦! にほんごできます。」(国際交流基金)

- 第9課 「ものをさす一家-」
- ・基本スキット及び応用スキット (英語字幕あり)
  - ・これは何 → はしおき
  - ・見てみよう「家」
  - 玄関、廊下、和室、トイレ、お風呂などを見ることが出来る。
- 第7課 「ものをさす一家-」
- ・これは何 → 玄関のスリッパ立て

2. イギリスの家でホームステイをする日本人のためにイギリスの生活様式を説明するという目的で、資料を作ったり、発表をしたりする。クラスにいろいろな文化背景の学生がいれば、イギリス以外の国や文化圏での生活様式も、いっしょに取り上げることもできる。例えば、情報を整理するために、下のような表を作って、記入してもよい。

😊 イギリスの生活 (家で)

いつ/どこで	何をしませ/しません
例) げんかんで	くつをぬきません。

